朝日物語

初編
分四編

徐雲雲 板行

へ13
3665
4

門へ13
號3665
卷 4

新編朝日譚第四輯目録 上帙

朝日丸穿窬の徒となる事 付 故國へ帰る事
白井中務諫死之事
穂田齋藤對面之事
并朝日丸松下が家へ仕る事
已上

錦重堂壽梓

四編上
上重刊
四編下

大ハ小を兼ぬるとゝゐど二王の草鞋ハ脚取も着まゞ居合抜の太刀以て柿の皮ハ剥がゞし小ハ大をこの弱ぬるとゝゐハ階子ハ升まハ大黒天ハ福禄壽の頭毛を剃ゝ母ハ煎茶粟細工の膳ハ出ちりて一番の古今雛ハ不義知をのゝまゝ敷百巻の朝日物語ハ繁雑を省き要文を鈔録せれど本編の三ケ一ハ足らねど変ハ足りて有と正月二月と小のつゞく甲子の秋

種彦白

當朝日譚之編麥出し後ゝ遅ゝ故あり次編延滯仕ル
ことハ今於四編出版仕ル上ハ多篇陸續刊行仕ル可ひ
者也猶緣法采メと申ス以上

錦重堂敬白

左ハ此下豊吉郎
前妻菊女
家人
松下加平次家
河邑次右衛門が女
右ハ
同ト人の
後妻八重見
藤井
又右エ門が女
種彦申ス
菊女が吏古書ヲ
未不見後妻の
吏い彼祖父物語ヲ記し共

又右エ門ハ名字浅野
春長君の御弓大将
娘の名
あ梅
あやめ
あしび

柿木介助
二編の末ふ
高坂壁内
と標出し
これと故者
と名を勢い

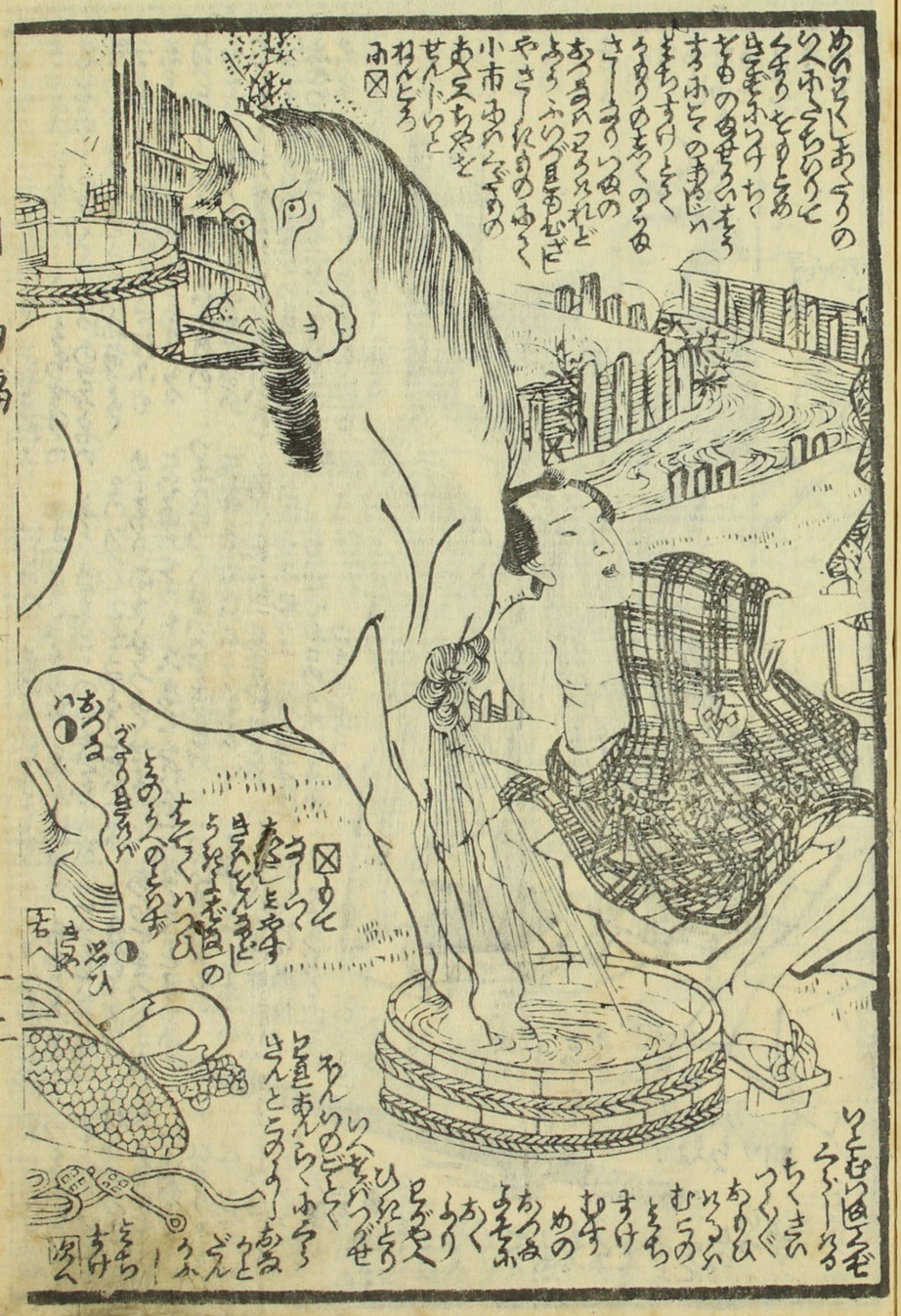
御料理
月

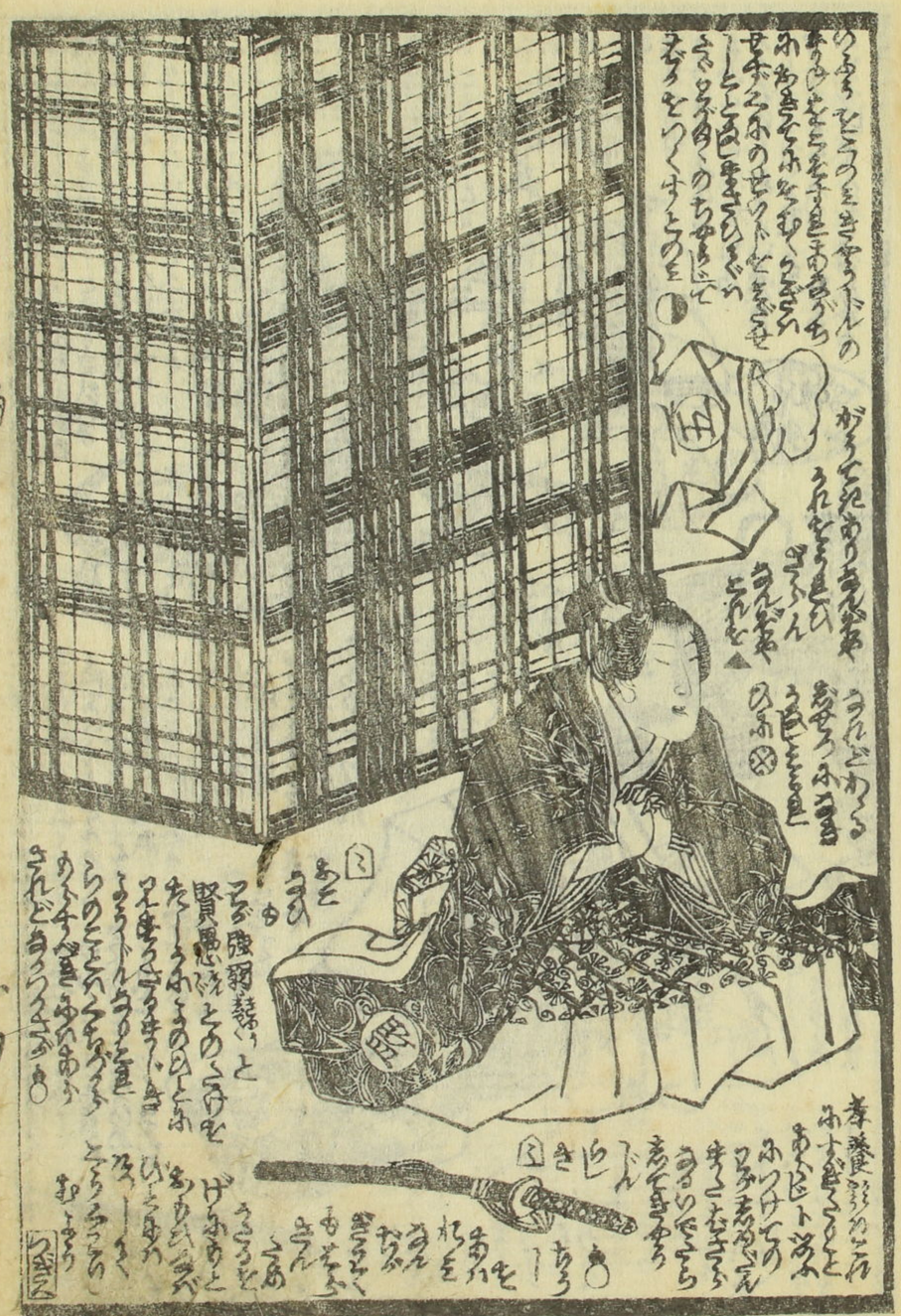
東日本編
南奥向諸石破検修図
天文十八年五月
他家

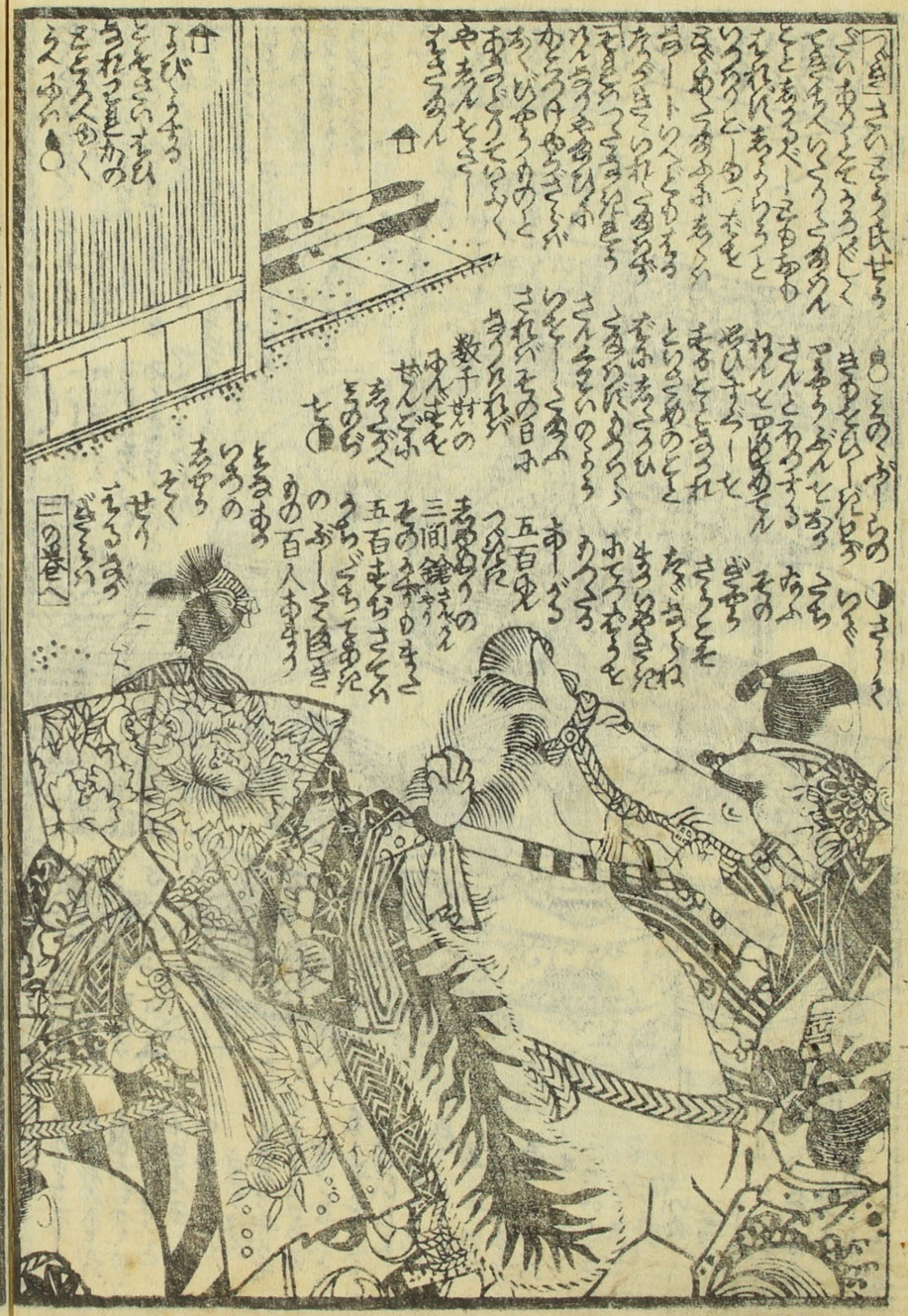
東日本編

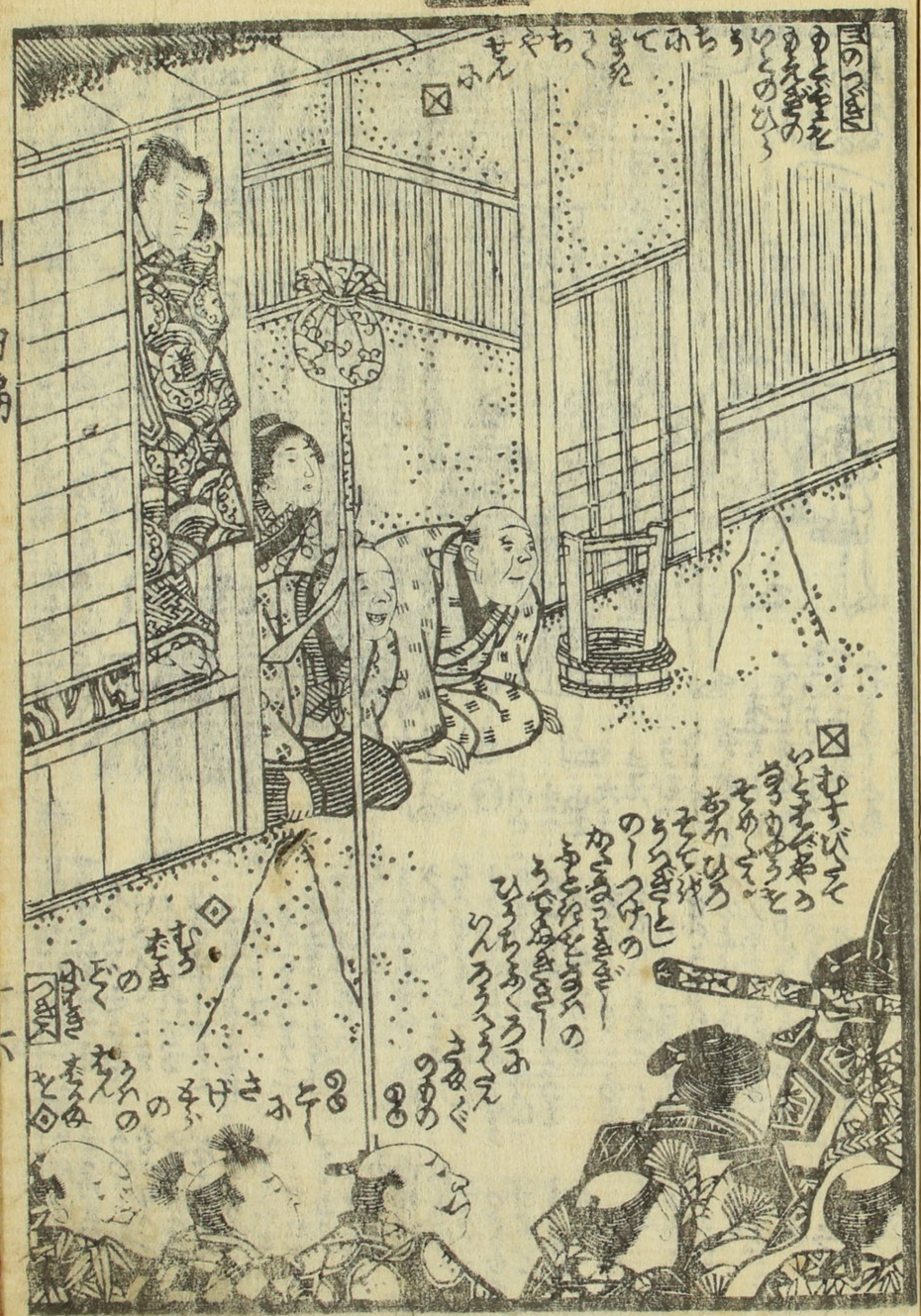
御新年
日比谷定信

耶姫尊
種彦修辭
芳幾画

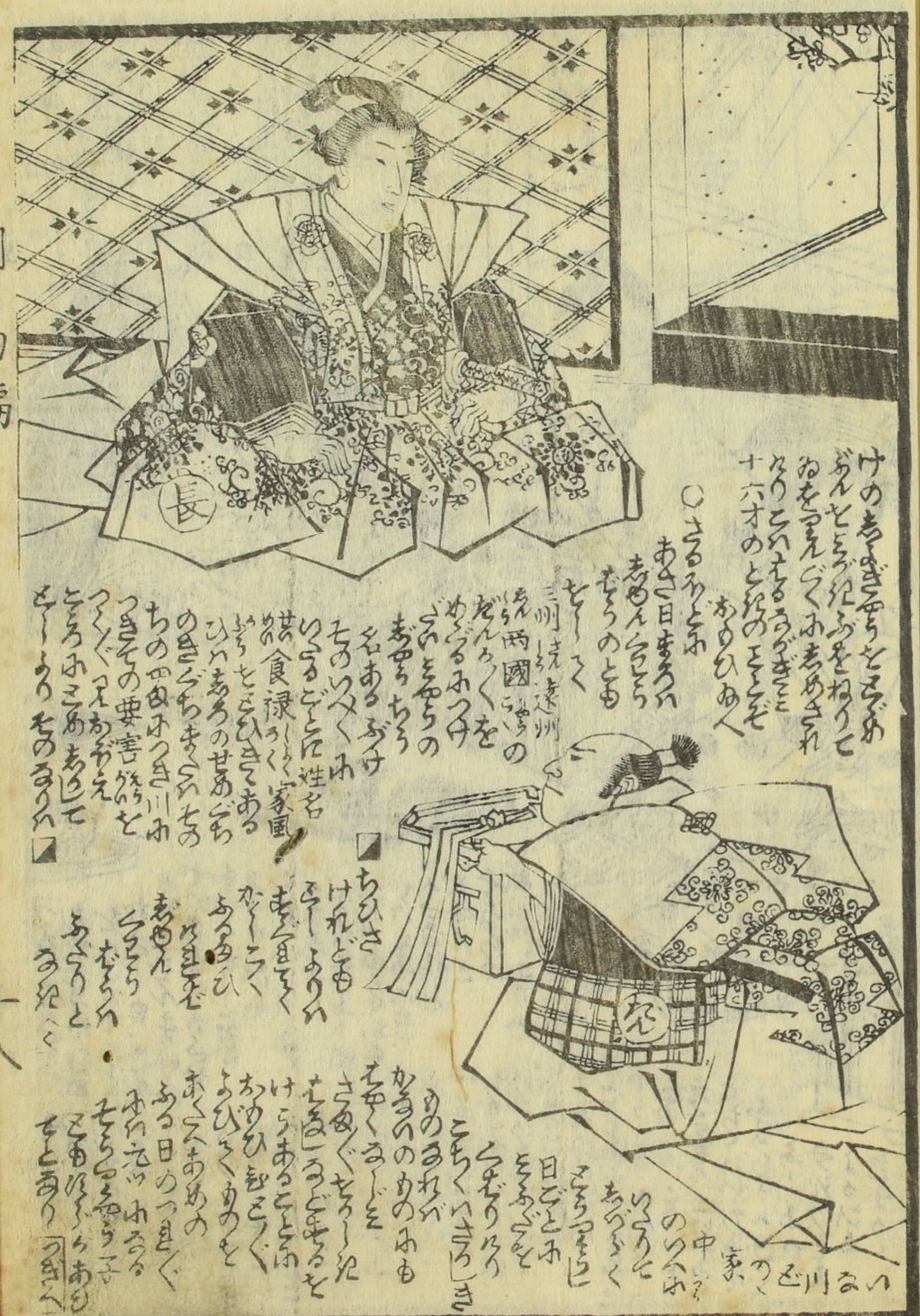




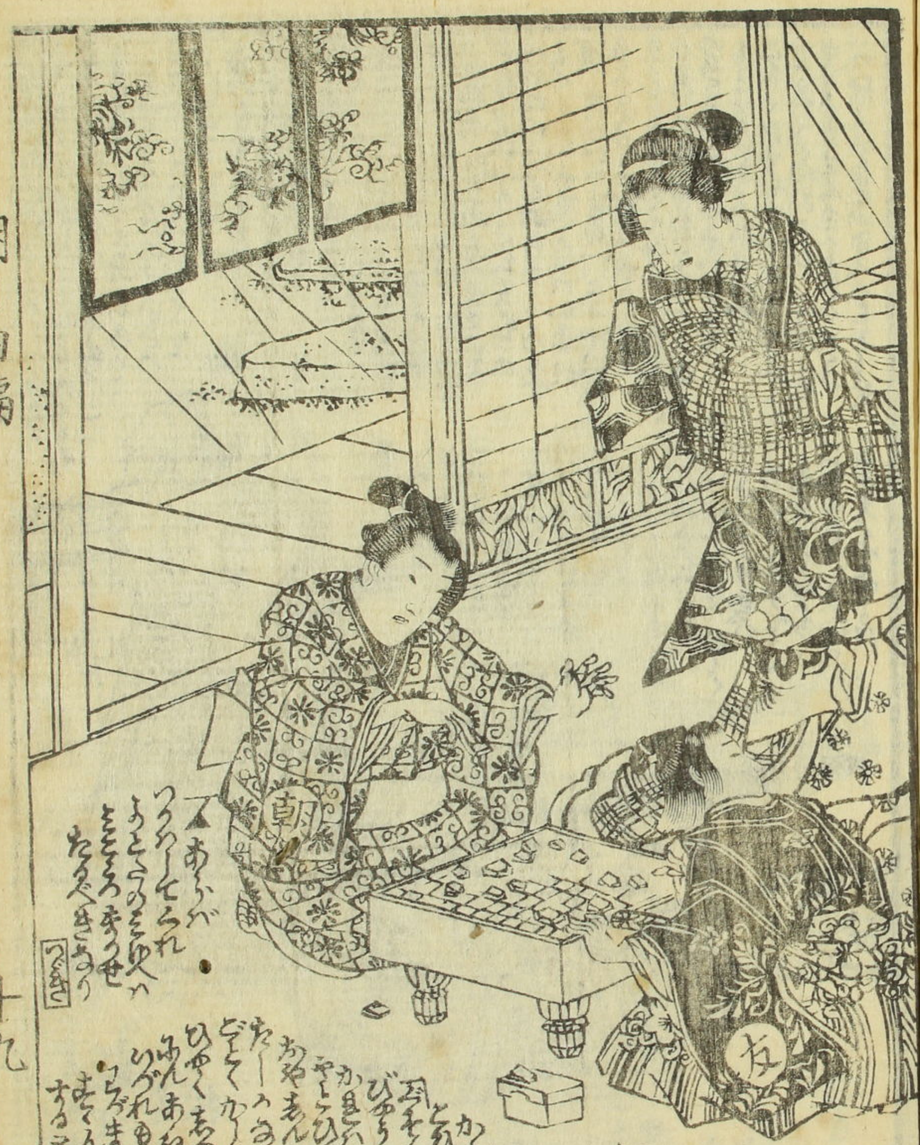




道
空

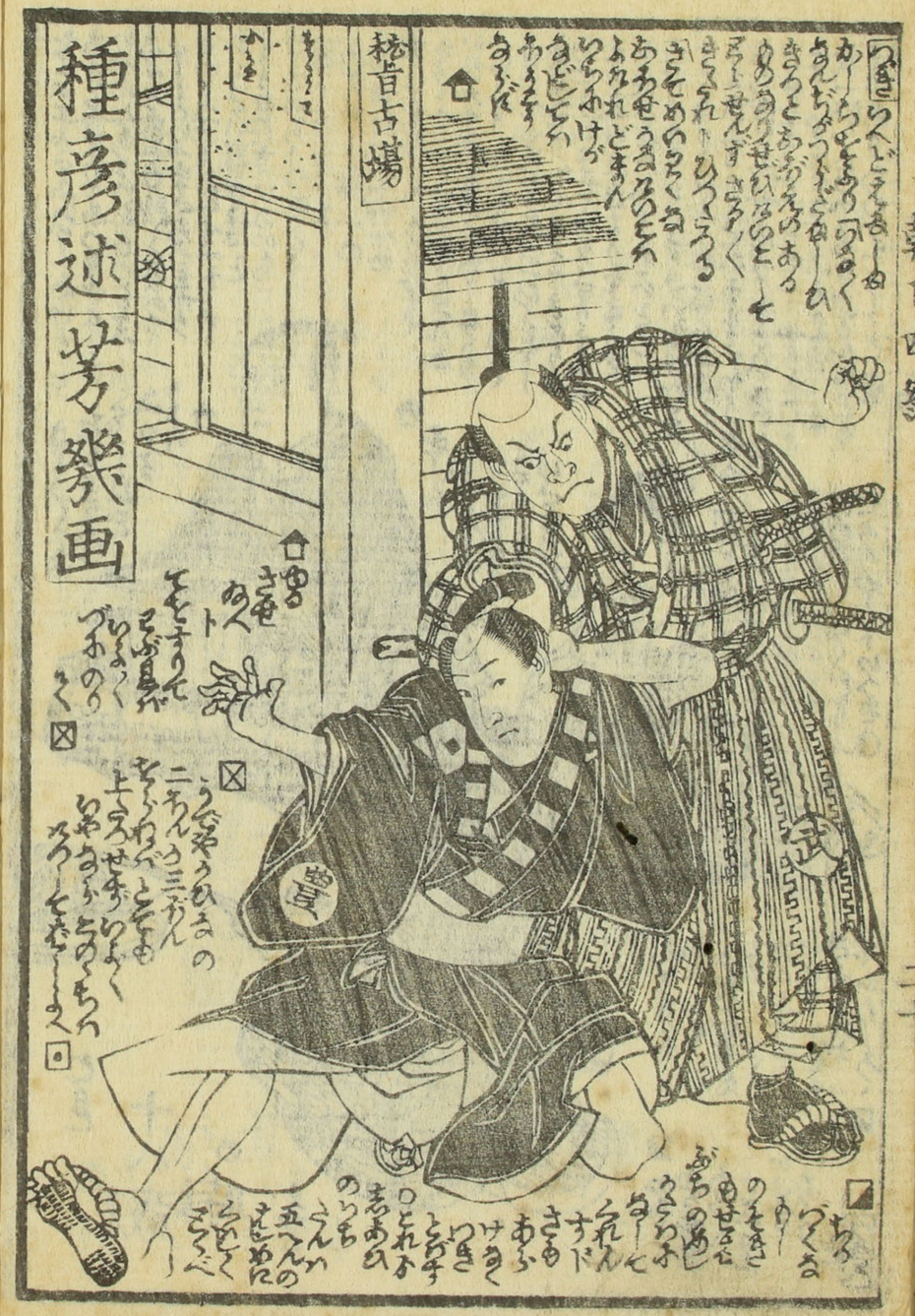

長
花

順
加


朝
友

朝日丸
松下の
家ゐ
奉公
元服
豐吉郎
高吉と
改む

十八歳の時



獨娘智八人世双六　大蛸　一勝亭豊国画
摩く狂斎画

樂屋壽古六　三遊亭圓朝老師の噺　化粧の鏡　五種面白き双六人
男女厄分　浪替壽語六　同　作　豊

奥秦公出世双六　同　作　国
子寶延命袋　同　作　豊